

事例報告

教職概論をアクティブ（能動的）に学ぶ －自己評価を通して－

田 中 保 樹

北里大学理学部

1 体験を通して内容を学ぶとともに学び方とその教育方法を学ぶ

本学の教職課程では、理学部、海洋生命科学部、獣医学部では1年前期に、看護学部は2年前期に教職概論の講義を位置付け学部ごとに授業を行っている。2018年度の履修人数は、理学部は37人、海洋生命科学部は23人、獣医学部は31人、看護学部は16人である。筆者は、2018年度の教職概論の単位認定者であり指導者である。教職概論は、どの学部においても教職課程の最初に履修する講義である。教職について学び、自らの教員としての適性を熟考し進路を考えることで、教職課程の見通しをもち、大学での修学や生活の在り方を考えるようにしている。教職概論の内容は教職の意義や教員の役割などであるが、その学習の過程において、求められている児童生徒の学び方を体験することを通して、言語活動や学ぶ楽しさを味わうことで、学生がアクティブ（能動的）に学ぶことができるようにしている。このように体験を通して、教職について考えたり表現したりすることで教職の理解を深めるとともに、求められる学び方を実現するための教育方法を学ぶことで、教員としての資質・能力の育成に資するようにしている。

2 体験を通してアクティブな学習を実現するための自己評価を学ぶ

中央教育審議会の答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（平成28年12月）」¹の下、2017年（平成29年）に幼稚園、小学校、中学校が、2018年（平成30年）に高等学校の学習指導要領が告示された²。新学習指導要領は、移行措置を経て、2018年度から年次進行で、幼稚園から順次、全面実施されていく。

答申では、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善として、主体的・対話的で深い学びの実現を図り、児童生徒の資質・能力を育成することが示された。現行の学習指導要領では、言語活動を充実することで児童生徒の主に思考力・判断力・表現力等を育成す

ることが求められている。教員は、児童生徒の資質・能力の育成を図るために、日々の授業において、言語活動を充実させたり、主体的・対話的で深い学びを実現したりする。そのために、教員は学び続けることで、教員としての資質・能力の育成を図ることが大切である。また、高等教育である大学において、アクティブ・ラーニングが求められている³。

このような状況で、大学の教職課程の講義において、求められている教育方法を実現することは、学生が教育について学ぶ上で大切である。また、学生が体験を通して学ぶことは、求められている学び方や教育方法の理解を深める上で有効と考えられる⁴。2018年度の教職概論では、次の表1のように、内容を学ぶとともにいくつかの学び方の体験を導入している。表1は毎回の授業における体験を整理したものである。また、毎回の授業の終わりには振り返りを行い、自己評価を行うようにしている。学生は、自己評価の体験を通して、その進め方を学び有効性を実感できるようにしている。

本稿では、学び方の体験において、学生がアクティブ（能動的）に学び、学習をより良いものへするための自己評価の実際と、その考察について述べる。

表1 2018年度の教職概論における内容と学び方の体験

| 回 | 学習内容と活動 | 体験 |
|---|---|--|
| 1 | 教職を目指す理由を明確にし、教員に求められる資質・能力の育成に向けての見通しをもち、今後の在り方を考える。 | 「なぜ教職を目指すのか」を追究するグループワークと言語活動の体験 |
| 2 | 教育に関して「良いことや充実していることなど」と「問題」を明確にし、今日的な教育における課題を考える。 | 今日的な教育における課題をテーマとしたジグソー学習法を通じた言語活動と主体的・対話的で深い学びの体験 |
| 3 | 今日的な教育における課題を解決する方策や取組などとその成果を考える。 | |
| 4 | 今日的な教育における課題の解決する方策や取組などと期待される成果を説明する。 | |
| 5 | 学習指導要領とその変遷や、現行と新しい学習指導要領を理解し、それに基づいた教育について考える。 | 「ありがたい学級」、「ありがたい保健室」を教材としたホワイトボードを利用したグループワークの体験 |
| 6 | 現行と新しい学習指導要領の理念に基づいた教育（学習指導や学習評価等）の在り方を理解し、その理解に基づいて教育の在り方を考える。 | 「評価規準とその観点を考える」ことを通じた評価することと自己評価の体験 |

| | | |
|----|--|--|
| 7 | インクルーシブ教育や学習における体験の意義を知り、介護等体験実習を能動的に学べるようにする。 | 資料を参照しても構わない短答式・記述式のペーパーテストを通して、「覚えるではなく理解する」ことの体験 |
| 8 | 学校組織（学校の教職員）の特徴と学校に関わる人、団体、組織等について理解する。 | 「学校組織」（学校の教職員）に関してまとめることで理解を深める体験 |
| 9 | 学校が社会的に担っている多様な責務について理解し、資料を参考にチーム学校運営について考察し、「これからの学校」をポンチ絵（文字だけでなく枠や矢印などの図を使い概要をまとめ、視覚的に分かりやすくまとめたもの）として表す。 | 「これからの学校」をポンチ絵として表すという言語活動を通じた思考力・判断力・表現力等を育成する体験 |
| 10 | 配付資料「教員に求められる役割」を踏まえ、教員に求められる役割について理解し考察することで、「チーム学校運営から考える『これからの学校』」を、ポンチ絵として表す。 | 「チーム学校運営から考える『これからの学校』」をポンチ絵として表すことで、チーム学校や教員などに関するこの理解を深めるとともに、思考力・判断力・表現力等を育成する体験（活用の体験） |
| 11 | 「教員に求められる役割」を踏まえたチーム学校運営から考える「これからの学校」をプレゼンテーションすること、「教員の役割と職務内容」に関わる資料と「教員の多忙」に関する記事から感じたり考えたりしたことなどを整理することで、「教員の役割と職務内容」についての理解を深める。 | ポンチ絵を基にしたプレゼンテーションを通じた音声言語による言語活動の体験と、「教員の役割と職務内容」に関する資料と新聞記事から感じたり考えたりすることで理解を深める体験 |
| 12 | 公教育と教員の在り方について理解し考察する。 | 「公教育と教員の在り方」に関して、具体例を考え大勢の前で説明するという音声言語による言語活動を通しての理解を深める体験 |
| 13 | 教員の在り方や求められる資質・能力についての理解を踏まえて、教員を目指している現在の自分の姿を捉え、今後の自分の在り方について考える。 | 自分の姿を捉え、今後の自分の在り方について考え表現する体験 |
| 14 | 教育や学校の在り方、教職の意義、教員の役割と職務内容、チーム学校運営等を踏まえて、自らを振り返り、教員としての適性を熟考する。 | 外部講師からの情報を基に、改めて自分の姿を捉え、教員としての適性について考え表現する体験 |
| 15 | 本講義を通して学んだことから、学校教育や教職の意義と本質についての考えをまとめる。 | これまでの講義を踏まえ、改めて学校教育や教職について考え、「目指す教員像」をポンチ絵として表現する体験 |

3 自己評価表の導入

学習をアクティブに進めるには、自己評価は欠かせない。また、教職課程において自己評価について体験を通して学ぶことは、自己評価の重要性や効果を実感し、教員としての自己評価や児童生徒の自己評価を進める上で役立つものと考えられる。教職概論では、図1のような自己評価表を導入し、毎回の授業における学生の自己評価を促すだけでなく、指導者としての形成的な評価に利用している。また、学生と指導者の授業の出欠席のマネジメントに利用している。

The diagram illustrates the structure of the 2018 self-evaluation form, divided into four pages:

- 4 ページ (Page 4):** Contains the title 「目標・見通し」と学んだこととその振り返りを比較して (Comparing goals and expectations with what was learned and reflection). Below it is a section for 全体を通して、学んだこととその振り返り (Overall, what was learned and reflection). A callout bubble explains: 「15回目の自分と1回目の自分の比較から変容や成長したことを記入する。」 (Record changes and growth by comparing the 15th and 1st sessions).
- 1 ページ (Page 1):** Contains the title 2018（平成30）年度「教職概論」自己評価表 (2018 'Introduction to Teaching' Self-Evaluation Form). It lists 15 evaluation items. A callout bubble explains: シラバスの概要を示す。 (Show the overview of the syllabus). Another bubble explains: 1回目の授業において、シラバスの概要を踏まえた自分の目標・見通しを記述する。 (In the first lesson, describe your goals and expectations based on the syllabus overview).
- 2 ページ (Page 2):** Contains the title 学んだこととその振り返り (What was learned and reflection). It features a table with 8 rows and 2 columns for recording reflections. A callout bubble explains: 第15回の授業において「全体を通して、学んだこととその振り返り」を記入する。 (In the 15th lesson, record 'overall learning and reflection').
- 3 ページ (Page 3):** Contains the title 学んだこととその振り返り (What was learned and reflection). It features a table with 15 rows and 2 columns for recording reflections. A callout bubble explains: 各授業における「学んだことと、その振り返り」を記入する。 (Record 'learning and reflection' for each lesson).

At the bottom of the diagram, a callout bubble explains: 指導者の形成的な評価に利用する。 (Use for formative evaluation by supervisors). Another bubble explains: 出欠席のマネジメントに利用する。 (Use for attendance management).

図1 2018年度の教職概論における自己評価表

4 自己評価表のつくりとその利用方法

自己評価表は、A4で4ページの冊子形式になっていて、1ページ目にはシラバスの概要を示し、いつでも講義の目的、目標、内容、方法、評価、計画を確認できるようにしている。また、第1回の授業において、そのシラバスの概要を踏まえた自らの「目標や見通し」を記入する。

4ページ目には、第15回の授業において「全体を通して、学んだこととその振り返り」を記入する。冊子を開くと、この4ページ目と1ページ目は見開きになり、15回目の自分と1回目の自分を比較することができるようになっている。さらにその比較から自身の変容や成長したことなどを記入する。これは、本講義における学習前と学習後の自分をメタ認知できるようになっているから、記入できるものである。つまり、1枚の紙に学習前と学習後の自分の姿が可視化されているため、変容や成長を捉えることができる。これは、堀哲夫の評価論⁵を参考にしている。

また、2ページ目と3ページ目は、全15回のそれぞれの授業において自己評価を行い、「学んだことと、その振り返り」を記入する。各授業において、最後の5分程度で記入するようにしている。学生は、実施した学習活動だけを書くのではなく、その活動から、自分が学んだこと、実感したことや気付いたこと、分からなかったことやできなかったことなどを記述するようにしている。また、それらを振り返り、自分の状況や変容、学習に対する思い、今後に向けての改善や充実させたり発展させたりすることなどを記入するようにしている。

これらの記述から、指導者は各授業の目標の実現状況を捉えるようにして形成的な評価を行っている。指導者は、授業の終了後、一人一人の記述を読み、教員を目指すに当たって大切なことやポイントになる点としての下線や、本人の思いを価値付けるための下線を引き、確認欄にサインする。付箋紙を付けたり、できる範囲ではあるがコメントを記入したりする。次の授業の始まる前に自己評価表を返却する。必要に応じて、個々の学生に声をかけ指導や助言をするようにしている。また、授業の始めには、前回の授業の様子や振り返りからとして、全員に対しての補足や今後の取組に向けての指導や助言をする。この自己評価表は、指導者の形成的な評価における強力なツールと言える。これも先に述べた堀哲夫の評価論を参考にして、大学の講義における形成的な評価を実現させたものである。

また、毎回の自己評価の記入は、授業に参加したからこそ記入できるものである。授業の開始前に返却するので、欠席者の自己評価表は手元に残り、確認欄にサインとともに「休み」と記入し欠席を明確化する。次の授業の始まる前に、欠席者へは自己評価表を返却するとともに欠席した授業の配付資料を渡す。そして、欠席に関わる補足等をする。このようにして、出欠席をすぐに把握し、出席者だけでなく、欠席者へのフィードバックも容易にすることができる。欠席した学生も、欠席の授業の内容を把握し、必要に応じた対応を

することができる。自己評価表は、指導者だけでなく学生も、授業の出欠席のマネジメントを行う上で、有効なツールとなっている。

5 自己評価表の実例

次の図2は、2018年度のある学生の自己評価表である。

「目標・見通し」と「学んだこととその振り返り」を比較して

教員は、勉強以外のことも考えることが求められているということが分かった。
また、一番大切なことは子どもを第一に考えることであると学ぶことができた。
相手の話を聞いてうまく質問できるようにするために、もっと対話の練習をする。
4/24 4.7

2018（平成30）年度「教職概論」自己評価表

目的 教育職員免許状取得のための全般的な導入として、教職科目及び介護等体験等に関するガイダンスを行い、学校教育及び教職について正しい理解を確め、教員として求められる資質・能力の育成を目指す。

目標 教職の意義、教員の役割及び職務内容、チーム学校運営に関することについて理解するとともに、教育課程を基とした教育実践の考え方を学ぶことによる態度を身に付ける。
また、学習指導要領や教育に関する法規等を踏まえ、自分の考えや意見を論理的に構成し、それを相手に思いを込めて適切に説明することができるようにする。

内容 「学校教育とは何か、教員の役割とは何か」を中心に、現在の学校教育が抱える諸課題に対し、何が求められているか、何をすべきかについて、教職の立場で考えを述べ、そのほか、自主的・自発的にレポート等の作成や発表等を行い、聴く・説明する、考える、書く、説明することを通して、思考力、判断力、表現力等を高める。

方法 教科書、参考書、配布するレジュメや資料等に基づき授業を基本とし、討論や発表等を行い、話し合いやミニレポート等の発表を行う。また、授業ごとに学んだことを自己評価表に整理することで、授業の実現できるようにする。

評価 到達目標に照らして、まとまりごとのレポート等によって、総合的に評価し評定する。

授業計画

- 1回 教職概論 (1) 「なぜ教職を目指すのか」「教員に求められる資質・能力」
- 2回 教職概論 (2) 「教員に求められる資質・能力」(今日の教職概論)
- 3回 今日の教育課程 (1) 「教員に求められる資質・能力」「教員と学校の在り方」
- 4回 今日の教育課程 (2) 「学習指導要領」「教育内容」
- 5回 学習指導要領 (1) 「学習指導要領の変遷」「現行と新の学習指導要領」
- 6回 学習指導要領 (2) 「教育」「学習指導要領や学習指導要領」の在り方
- 7回 介護等体験実習に向けて「インクルーシブ教育」「体験の意義」
- 8回 チーム学校運営への対応 (1) 「学校組織の特徴」「学校に携わる人や団体等」
- 9回 チーム学校運営への対応 (2) 「学校の組織と役割」「チーム学校運営」
- 10回 教員の役割と職務内容 (1) 「教員に求められる役割」「学校に携わる人や団体等」
- 11回 教員の役割と職務内容 (2) 「教員に求められる役割」の在り方
- 12回 教職の意義 (1) 「公教育と私教育」「教員としての道徳性」
- 13回 教職の意義 (2) 「教職への理解と道徳意識」「教員としての道徳性」
- 14回 教職の意義 (3) 「教員を目指す理由」「教員としての道徳性」
- 15回 教職に関するまとめ「学校教育や教職における意義と本質」

全体を通して、学んだこととその振り返り

- ・子どもを第一に考えることが大切
- ・学校運営にはたくさんの人が関わっている
- ・勉強以外のことも学校で考える

私が学んだことと特に重要だと思ったのは、この3つです。今まで生徒としてしか学校に関わってこなかったため、学校の色々な側面を見ることができてとても勉強になりました。

目標・見通し

教員に何が求められているか理解し行動できるようにする。
相手の話を聞いて、うまく質問できるようにする。
4/24 4.7

| 日 | 学んだこと、その振り返り | 出席確認 | 日 | 学んだこと、その振り返り | 出席確認 |
|---|---|------|----|--|------|
| 1 | 教職概論(1)「なぜ教職を目指すのか」「教員に求められる資質・能力」 理科・学ぶことの「楽しさ」を伝えることが大事。それを知ってもらうことがやりがいにもなる。相手の質問を返すのが楽しかった。 | 4.7 | 9 | チーム学校運営への対応(2)「学校の組織と役割」「チーム学校運営」 チーム学校運営における「教員一人ひとりの役割」を考えた。自分の在り方に、責任をもちたいと感じた。 | 4.7 |
| 2 | 教職概論(2)「教育に関する問題等」今日の教育課程 公立の学校の数が比較的多いのが印象的だった。多くの課題を改善することが課題だと感じた。プレテストができた。 | 4.7 | 10 | 教員の役割と職務内容(1)「教員に求められる役割」 ボウリング大会が楽しかった。みんなが楽しそうに、全体を把握しながらその「仕事」をこなしている感じがした。 | 4.7 |
| 3 | 今日の教育課程(1) 自分達の課題でさえ時間自分が難しいのに、教師としての生徒の様子は思いがらに授業を進めていくのはとても難しいと感じた。 | 4.7 | 11 | 教員の役割と職務内容(2)「教員に求められる職務内容」 自分の役割を学ぶことができた。自分だけでなく、子どもにも関わって授業を進めることができた。楽しかった。 | 4.7 |
| 4 | 今日の教育課程(2) 教育についての他の人の様子は意見が違っていた。私も自分の意見をしっかりと発信しているように感じた。 | 4.7 | 12 | 教員の役割と職務内容(3)「教員を目指す理由」 教員に就くことに決めた。前に立てた目標を達成するために頑張りたいと決めた。 | 4.7 |
| 5 | 学習指導要領(1)「学習指導要領の変遷」現行と新の学習指導要領 学習指導要領はこれから新しくなっていくのだから、教員としては大変だけど、時代に合わせた授業を大切にする必要がある。おもしろい授業が楽しかった。 | 4.7 | 13 | 教職の意義(1)「公教育と教員の在り方」 4月に自分の書いたこととは違っていた。やはり今のまま知識を増やして成長していきたいと思うようになった。 | 4.7 |
| 6 | 学習指導要領(2)「教育」「学習指導要領や学習指導要領」の在り方 生徒が自ら学ぶという意識を育てたい。教員側が指導を頑張ることも大切だが、どうにかして生徒の意識を育てようという授業にしたい。 | 4.7 | 14 | 教職の意義(2)「教職への理解と道徳意識」 今日のお話を聞いて、子どもを第一に考えることが大切だということを感じた。先生としての責任をしっかりと果たしたい。 | 4.7 |
| 7 | 介護等体験実習に向けて「インクルーシブ教育」体験の意義 子どもの数は減っているのに特別支援学級や障害のある子どもが増えているのが不思議だ。先生としての時間配分が上手に出来た。 | 4.7 | 15 | 教職に関するまとめ「学校教育や教職における意義と本質」 最後に今まで学んだことを振り返ると、まとめることができた。色々な授業が楽しかった。先生としての責任をしっかりと果たしたい。 | 4.7 |
| 8 | チーム学校運営への対応(1)「学校組織の特徴」「学校に携わる人や団体等」 レポートをまとめるのが楽しかった。学校の職員の方、道が広がり、いろいろな経験が意外と少なく驚いた。(でも副校長は意外に忙しそうだった) | 4.7 | | | |

図2 2018年度の自己評価表の例

※ 下線は指導者である筆者が授業ごとに引いたもの

6 自己評価の実際からの考察

一例ではあるが、図2の自己評価表の記述から考察する。

(1) 「目標と見通し」において

1 ページのシラバスの概要を踏まえての「目標や見通し」は、次のように記述している。

教員に何が求められているのか理解し行動できるようになる。
相手の話を聞いて、うまく質問できるようになる。

「教員に何が求められているのか理解し行動できるようになる」からは、本講義における知識の習得や理解だけにとどまらず、それらを基に実際に行動できるようになるまでを目標に位置付けている。新学習指導要領における「何を学ぶか」と「何をできるようになるか」に対応している。知識の活用には課題がある我が国において、目標の設定として望ましく、本講義においては教員に求められる資質・能力の育成に資するものと言える。実際に行動できる教員を目指すことを自ら位置付けているところは、「学びに向かう力」と「人間性」においても望ましいと言える。

「相手の話を聞いて、うまく質問できるようになる」は、本講義は内容を学ぶとともに体験を通して学び方を学ぶという方針を反映している。初回の授業における本講義のオリエンテーションを受けて記述したものと考えられる。

授業において、児童生徒は、習得した知識・技能を活用して、学んだことを説明したり、新たな事象を説明したりできるようになることが大切である。そのためには、教員がすべてを説明するのではなく、できるだけ児童生徒が説明するような授業を実現することである。そのためには、教員の資質・能力として、聴くことが大切となる。教員は児童生徒のつぶやきや説明をしっかりと聴きとり、説明に対して「なぜ」とか、「どうして」とか、「そして」とか、問い直したり発展を促したりすることで児童生徒の説明における根拠を明確にしたり説明をより深いものにしたることで、児童生徒の思考力や表現力を引き出すことができる⁶。「相手の話を聞いて、うまく質問できるようになる」は、そのことを意識しての学生なりの目標設定と言える。

(2) 各授業における「学んだことと、その振り返り」において

3 ページと 4 ページの各授業における「学んだことと、その振り返り」の記述と考察を、表2に整理した。なお、「学んだことと、その振り返り」の記述の下線は、筆者が指導者として授業後に読んだ際に引いたものである。教員を目指すに当たって大切なことやポイントになる点としての下線や、本人の思いを価値付けるための下線を引いている。また、必要に応じて、次の授業の始まる前に、記述を基に本人と話し、指導や助言をするようにしている。

表2 図2の自己評価表の各授業における「学んだことと、その振り返り」の記述とその考察

※ 下線は指導者である筆者が授業ごとに引いたもの

u003c/div>

| 回 | 「学んだことと、その振り返り」の記述 | 考察 |
|---|---|--|
| 1 | 理科・学ぶことの「楽しさ」を伝えることが大事。それを知ってもらうことがやりがいにもなる。相手への質問をするのが難しかった。 | 「なぜ教職を目指すのか」を追究するグループワークにおいて、自身の目標である他者への質問を試み、その難しさを実感している。 |
| 2 | 赤いふせんの数の方が比較的多いのが印象的だった。 <u>多くの課題を改善することが課題だと感じた。ブレインストーミングは苦手かも。</u> | これまでの児童生徒から見た教育は成果より課題が多いことに気づき、それらを改善することがこれからの教育の課題と実感している。また今日的な教育における課題をブレインストーミングで洗い出すことに困難さを感じている。 |
| 3 | 自分達の課題でさえ時間配分が難しいのに、 <u>教師として生徒の様子を見ながら授業を進めていくのはもっと難しいそうだと<u>思った。</u></u> | ジグソー学習法のエキスパートグループにおける進行を通して、授業における教員のタイムマネジメントの難しさを実感している。 |
| 4 | 教育についての他の人の様々な意見がきけて <u>ためになった。私も自分の意見をしっかりと持って発信していけるようになりたい</u> と思った。 | ジグソー学習法のホームグループにおける説明や討議から、他者の考えの多様性を実感し、自分の考えをもち表現できるようになることを目指そうとしている。 |
| 5 | 学習指導要領はこれからも新しくなっていくので <u>教員としては大変だけど時代に合わせた教育も大切だ</u> と思った。 <u>やっぱりグループワークの方が楽しい…。</u> | 学習指導要領の改訂に即し教育を改めていくことの大切さと、ホワイトボードを利用したグループワークの体験の楽しさを実感している。 |
| 6 | <u>生徒が自ら学んでいるという意識をもっていないと教員側が指導を頑張ってもだめなので、どうにかして生徒の意識を変えるような授業にしないといけない。</u> | 評価することと自己評価の体験から、授業を行う際、生徒の内面に迫り、内発的な動機付けをすることの大切さを実感している。 |
| 7 | 子ども数は減っているのに <u>特別な支援を必要とする子どもが増えているのが不思議</u> だった。先生の時間配分が上手だな～と思った。 | インクルーシブ教育を学ぶことで、現在の子供の実態や状況に問題を見いだしている。また、タイムマネジメントを学ぼうとしている。 |
| 8 | <u>レポートをまとめるのが難しかった。</u> 学校の職員のうち、置かなければならない役職が意外に少なく驚いた。(でも副校長は絶対になきゃだめだと思う。) | 「学校組織」(学校の教職員)に関してまとめたことと、自身の経験を関連付けた考察をしている。 |

- 98 -

| | | |
|----|--|---|
| 9 | チーム学校運営における登場人物のそれぞれの役割をよく考える機会になった。 <u>自分のまわりにもこんなに支えてくれる人がいたんだと感じた。</u> | 「これからの学校」をポンチ絵として表すことで、教職員の役割を考察し、自身の経験を関連付け、子供のために多くの教職員が指導や支援に当たっていることを実感している。 |
| 10 | ポンチ絵のレイアウトがあまり上手くいかなかったので、 <u>全体を把握しながら物事を進められるようになりたいと思った。</u> | 「チーム学校運営から考える『これからの学校』」をポンチ絵として表すことを通して、見通しをもった取組の大切さを実感している。 |
| 11 | 教員はただ勉強を教えるだけではなく、 <u>子どもと関わって育てるという役割もあるけど、それをするのはすごく大変そうだと</u> <u>思った。</u> | 「教員の役割と職務内容」を表したポンチ絵の作成と、ポンチ絵を使ってのプレゼンテーションを通して、教員の役割の大変さを実感している。 |
| 12 | 教員になった際にやっても良いこと、悪いことを学ぶことができて良かった。 <u>前に立って発表するのは緊張したのでこれから慣れていきたいです。</u> | 「公教育と教員の在り方」に関して学び、その具体例を考え大勢の前で説明することを通して理解を深めている。また、大勢へ説明するということに前向きに捉え自らを高めようとしている。 |
| 13 | 4月に自分の書いたことと比べると、 <u>やはり今の方が知識も増えて成長していると実感することができた。3年後にはもっと成長できたと思えるようになりたい。</u> | 自分の姿を捉え、今後の自分の在り方について考え表現する体験を通して、講義を通して成長した自分を捉え、教職に向けての向上心をいづいている。 |
| 14 | 今日のお話を聞いて、 <u>子どものことを第一に考えることが大切なことだと改めて感じました。コミュニケーション力を高めていきたいです。</u> | 外部講師からの情報を基に、改めて自分の姿を捉え、教員としての適性について考え表現する体験を通して、コミュニケーション能力の育成を掲げている。また、教員は子どものことを第一に考えることが大切なことだと改めて実感している。 |
| 15 | 最後に今まで学んだことをポンチ絵にまとめることができて楽しかった。 <u>ひとつひとつの講義がすべて結局は子ども達のために繋がるんだと思うと、とても有意義な勉強ができたんじゃないかと思えます。ありがとうございました。</u> | これまでの講義を踏まえ、改めて学校教育や教職について考え、「目指す教員像」のポンチ絵として表現する体験を通して、教員も含めて教育に関わるあらゆることは子供のためにあるということを実感している。また、考えを表現する楽しさを実感している。 |

(3) 「全体を通して、学んだこととその振り返り」において

4 ページの「全体を通して、学んだこととその振り返り」は、次のように記述している。

- ・子どものためを一番に考えることが大切
- ・学校運営にはたくさんの人たちが関わっている
- ・勉強以外のことも学校で教える

私が学んだことで特に重要だと思ったのは、この3つです。今まで生徒としてしか学校に関わってこなかったので、学校の色々な側面を見ることができてとても勉強になりました。

「子どものためを一番に考えることが大切」と「学校運営にはたくさんの人たちが関わっている」は、各回の授業において、学校に関わる法律、仕組み、組織、教職員、学校運営協議会など様々なことの目的は「子供のより良い成長」のためにあることから成立していることを触れてきたことの結果と考えられる。また、第14回の授業において、学校運営協議会に造詣が深く、「まちと学校のみらい」の代表理事である竹原和泉氏を講師に招いて、学校運営協議会や学校を外から支援している地域などの取組や在り方について学んだ結果と考えられる。実際この学生は、3ページの第14回の授業における「学んだことと、その振り返り」に、次のように記述している。

今日のお話を聞いて、子どものことを第一に考えることが大切なことだと改めて感じました。コミュニケーション力を高めていきたいです。

「勉強以外のことも学校で教える」は、各回の授業において、教育の目的、目標、学習指導要領、教育課程などに触れることで、生きる力や資質・能力の育成、そのために学校は社会に開かれた教育課程を実現することや各教科等において言語活動を充実したり主体的・対話的で深い学びの実現を図ったりすることの大切さを学んだ結果と考えられる。

学生の教育観や指導観、評価観などは、これまで歩んできた学校や学習塾、習い事、生活など人生における様々な原体験によるところが大きい。学習塾でアルバイトしている学生もいる。学習塾での児童生徒の実態や学習塾の指導方針から、教育を見ている学生もいる。第12回の授業の際、「公教育と教員の在り方」において、学校と学習塾、教員と塾講師のそれぞれの違いに関して、学校に関わる法律などを踏まえて考察した。また、授業によっては学校や教員の役割を熟考することもあった。「勉強以外のことも学校で教える」は、このような講義の過程を踏まえての結果と考えられる。

(4) 「『目標・見通し』と『学んだこととその振り返り』を比較して」において

4 ページの全体を通して、「『目標・見通し』と『学んだこととその振り返り』を比較して」は、次のように記述している。

教員は、勉強以外のことも教えることが求められているということが分かった。
また、一番大切なことは子どものことを第一に考えることであると学ぶことができた。
相手の話を聞いてうまく質問できるようになるためには、もっと対話の練習をする。

「教員は、勉強以外のことも教えることが求められているということが分かった」と「一番大切なことは子どものことを第一に考えることであると学ぶことができた」は、前述の(3)で述べたようなことから、「分かった」と述べていることが考えられる。

「相手の話を聞いてうまく質問できるようになるためには、もっと対話の練習をする」は、各授業における言語活動など対話的な学習の場面において、まだまだ十分ではないと感じられることがあったのではないかと推察できる。このように、更なる向上を目指す態度を自らの意志で表現できるところに、本学生の今後の成長が期待できる。是非、聴き上手の教員になってもらいたい。

7 自己評価を通してアクティブに学ぶ

ここまで、1人の学生の自己評価表を通して、本講義における学生の自己評価の実際と考察を述べてきた。これをもって一般化することはできないが、他の学生の自己評価表からも、講義における学ぶ姿勢を見て取れる。また、自己評価表の利活用は、学生の自己評価を促し、指導者の形成的な評価を実現する。さらには、出欠席のマネジメントを行ったり欠席者へのフォローを行ったりすることができる。自己評価表は授業改善のための有効かつ大切なツールとして機能している。

講義を通していくつかの課題を課し、課題に対してのパフォーマンスの一環としてレポートを提出する。そのレポートを評価し評定して返却する際、必ず、レポートを含めたパフォーマンスの自己評価を行うようにしている。教員になれば評価・評定を行わなければならない。学生としての自己評価ではあるが、教員としての評価と評定を行うつもりで当たるように促している。次の図3は、2018年度のある課題におけるレポートを含めたパフォーマンスの自己評価の例である。「主体的に学習に取り組む態度」以外の観点の評価規準を自ら設定し、自己評価を行っている。このような自己評価を課題ごとに行い、自己

評価やメタ認知に関する能力を培うとともに、学習評価についての理解を深め、その力量を高めるようにしている。

レポート「チーム学校運営（1）」の振り返り

自己評価

| 評価の観点 評価規準 | 自己 評価 | 自己評価の根拠と、改善に向けての手立て |
|---|----------|--|
| 主体的に学習に取り組む態度 法令等を参考に、教職員に関して まとめることで、学校の教職員について 理解を深めようとしている。 | B | どれど「それが」というような役割を持ち、 <u>興味</u> の味を持ち、まとめあげ理解を深めようと考え る。また、朱書きによりさらに理解を深められ ていると考える。 |
| 思考力・判断力・表現力等 自分が学んだ内容を他者に伝 えるように表現している。 | B | 他者に伝わるように大切な部分の抽出に 出来ていると考える。役割ごとの比較がもう少し しめるとさらに良いと考える。 |
| 知識及び技能（知識） 学んだ内容を正しく説明して いる。 | B | 学んだ内容を役割ごとに正しく言 明していると考え。見直す際に役割の違 いがわかるように、また簡潔にまとめられ るとさらに良いと考える。 |
| 知識及び技能（技能） 言葉や脱字がなく、適切な 表記をしている。 | A | 誤字、脱字なく、適切な漢字を使 ってまとめられていると考える。誤字・脱 字がないかを見直す時間がとれるとさら に良いと考える。 |
| 時間配分 言画性をもち、学んだ内容を 適切な言葉で表現している。 | B | 限られた時間内での全ての役割につ いて述べることに出来ていると考える。見 直しの時間を考えてまとめることに出来 ればさらに良いと考える。また、役割の 比較の時間がとれることもさらに良い レポートに出来る |

※ 評価 A：十分満足 B：概ね満足 C：努力を要する

全体を通しての振り返り

今までは教職員としてと養護教諭のことばかりを知ろうとしていたが、「チーム学校運営」となると教職員がそれぞれ協力、連携し合っていることがよく分かります。なので、それぞれ教職員の役割を知ることが、どのようにそれぞれが連携をとり、どのようにかかわっているのか、教職員について知り、レポートにまとめ表現するアティヴ・ラーニングにより、より理解を深められたことは自分にとり良い機会となったので良かったです。また、養護教諭については色々知っていたつもりでしたが、高等学校に設置義務はないことには驚きました。人間関係等の問題が複雑な高等学校であるから設置義務がある、これもいいのでおまじかと考えました。今回のこのレポートにより、今まで知らなかった教職員の名前から細かい役割まで知ることが出来たので良かったです。養護教諭として働く際に他の教職員との連携のとり方を考える上での参考にしていきたいと考えました。

※ レポートの各説明を、朱書きすることによりよくする。

図3 2018年度におけるレポートを含めたパフォーマンスの自己評価の例
※下線は指導者である筆者が引いたもの

次は、ある学生の「『目標・見通し』と『学んだこととその振り返り』を比較して」の記述である。

インプットとした知識を正確にアウトプットするような形式と異なり、インプットした知識に基づき自分自身の考え方と向かいあい自分だけのオリジナルなものをアウトプットすることが求められる授業であり、自己表現、自己理解の何たるか、そして、その大切さを強く理解した。

新たな知識を得たことも勿論だが、この講義においては、アクティブ・ラーニングの体験から得たことが特に多かったと感じる。また、自分自身について考える機会が増え、これまで、いかに自分自身が漫然としていたか痛感した。

筆者が狙っていた講義における方針を代弁している学生の言葉である。このように内容を学ぶとともに学び方を学ぶような講義をすることができたのも、各課題におけるレポートを含むパフォーマンスに対する自己評価を行うことや、自己評価表を導入することで、学生一人一人がアクティブに学んだ結果と考えている。

注

- 1 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」平成28年（2016年）12月21日
- 2 文部科学省『幼稚園学習指導要領』平成29年（2017年）3月
文部科学省『小学校学習指導要領』平成29年（2017年）3月
文部科学省『中学校学習指導要領』平成29年（2017年）3月
文部科学省『高等学校学習指導要領』平成30年（2018年）3月
- 3 中央教育審議会大学分科会大学教育部会「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」（審議まとめ）平成24年3月26日
アクティブ・ラーニングに関して、「1. 予測が困難な時代と大学の責務（学士課程教育の質的転換と学修時間の現状）」において、次のように述べられている。

○予測困難な時代にあって生涯学び続け、主体的に考える力を持った人材は、受動的な学修経験では育成できない。求められる質の高い学士課程教育とは、教員と学生とが意思疎通を図りつつ、学生同士が切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する課題解決型の能動的学修（アクティブ・ラーニング^{*}）によって、学生の思考力や表現力を引き出し、その知性を鍛える双方向の講義、演習、実験、実習や実技等の授業を中心とした教育である。

※ 資料編 用語集 【アクティブ・ラーニング】

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学習者が能動的に学ぶことによって、後で学んだ情報を思い出しやすい、あるいは異なる文脈でもその情報を使いこなしやすいという理由から用いられる。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等を行うことでも取り入れられる。

アクティブ・ラーニングは、高等教育である大学に求められている教育方法である。初等中等教育である幼稚園・小学校・中学校・高等学校では、平成29年告示と平成30年告示の学習指導要領においてアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善として、主体的・対話的で深い学びの実現が求められていることに留意したい。

- 4 例えば、学習指導要領の改訂で話題となった「Leaning Pyramid（学習定着率）」によれば、体験(Practice by Doing)の学習定着率は75%である。ちなみに、講義(lecture)は5%、討論(Discussion Group)は50%、他者への教え(Teaching Others)は90%である。体験、討論、他者への教えのような学習者による学習活動は、講義など指導者による教授より定着率が高いことを示している。ただし、「Leaning Pyramid」の根拠は危うい⁷。ただ、講義(lecture)など指導者による教授より、他者への教え(Teaching Others)など学習者による学習活動の方が学習の効果が高いことは、多

くの人が経験していることではないだろうか。だからといって、教授を否定することはあってはならない。時には教授は必要であり効果がある。学習の狙いなどに即して、指導者による教授や学習者による学習活動を適切に行うことや、そのバランスを考えて授業を進めることが大切である。

- 5 堀哲夫『学びの意味を育てる理科の教育評価－指導と評価を一体化したその具体的方法とその実践－』東洋館出版社、2003
- 6 高木展郎『変わる学力、かえる授業。』三省堂、2015
- 7 土屋耕治「ラーニングピラミッドの誤謬－モデルの変遷と“神話”の終焉へ向けて－」pp.55-73、南山大学人間関係研究センター、2018